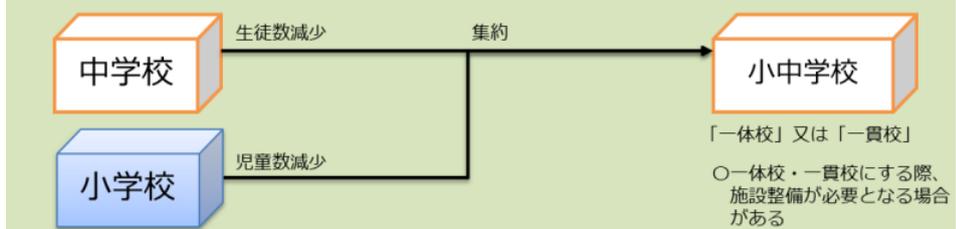


川越市個別施設計画において、2025年までに取り組みを進めるとしている学校施設は、仙波小学校、古谷小学校、東中学校、大東中学校です。

市民センターでは、上記以外では、古谷及び山田市民センターです。

**今後の小中学校施設集約化のイメージの一つ** 図：川越市個別施設計画より  
小中学校で集約し、地区に1つ、学校施設を残す（地域拠点・防災の観点）

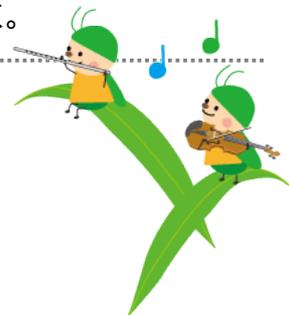


Q, 川口) 施設の複合化や集約化を行うにあたって、必要な情報は揃っているのか。

A, 総合政策部長) 施設規模や、利用状況など基本的な情報はそろっているが、集約化や複合化などの取り組み段階において必要となる情報は、その時々に応じて収集していく。

Q, 川口) 複合化や集約化を進めるにあたっては、様々な集められた情報を細かく分析する析できる体制とツールは整っているのか。

A, 総合政策部長) 現在は整っていないが、昨年度から多角的に分析やシミュレーションを行う分析ツールである「BIツール」の導入に向け、製品調査を行っている。



・ **BI(ビジネスインテリジェンス)ツールとは**

組織が大量に持っているデータから必要な情報を集約、分析し、データの活用支援をしてくれるものです。

**まとめ**

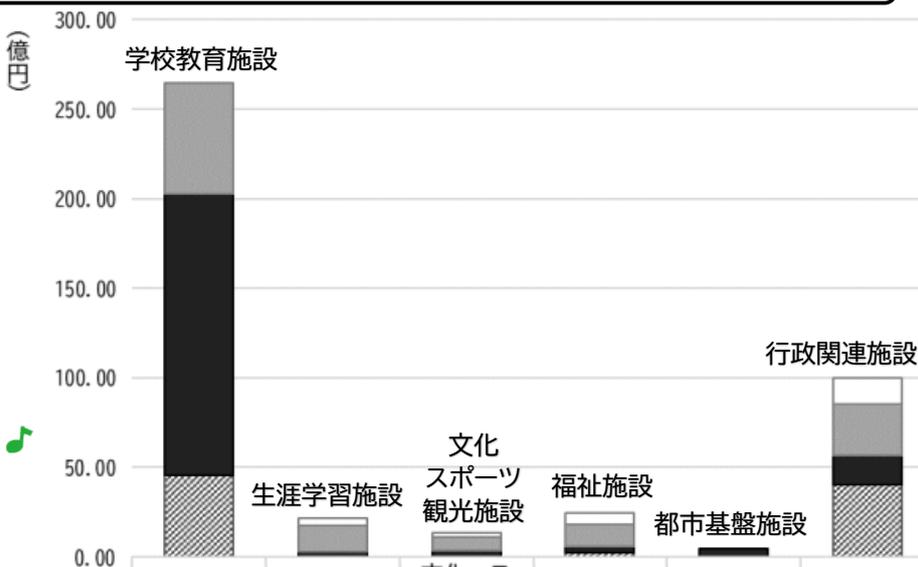
公共施設マネジメントを進める上で、既存施設の集約化や複合化は検討すべき事項になっているにもかかわらず、取り組みを進めるために必要な情報もそろっていない現状が明らかになりました。一方、これまでも提言をしてきた多角的な分析やシミュレーションを行う分析ツールであるBIツールの導入に向け検討が進められていることは評価できる点ですが、このように分析の体制が整っていない現在も、いくつもの公共施設について今後の検討を行っており、早期の導入が必要です。

**2020年～2025年施設改修・更新費用試算 6年間で428億1千万円(年平均71億3千万円)**

施設類型別の費用を見ても、延べ床面積の多くを占める学校教育施設(小中学校、市立高校、特別支援学校)で多くの費用を必要とすることが分かります。

さらに、人件費、建築資材等の高騰もあり、試算以上の増額も想定されます。

また、2025年以降もまだまだ多くの公共施設の改修更新が控えており、その一つひとつを丁寧に、しっかりと分析し、市民と共に進めていくことが必要と考えます。



**今年も「古谷湿地さかな観察会」に参加**

市内で唯一、「〇〇湿地」と名付けられた場所、私が子どものころには、「元荒川」と呼び、夏には毎日のようにザリガニ釣りをしてきたこの場所ですが、今はフェンスに覆われ、この日だけ中に入ることを許された場所となっています。

毎年恒例となった環境政策課主催のイベントに、今年も参加させていただきました。今年は地域の皆様にもお手伝いいただき、子どもたちと豊かな自然の中で生態系を学び、楽しい一日となりました。



10月21日(日)撮影:川口